

# 士魂商才



北海道根室高等学校  
商業科・事務情報科通信  
令和6年7月8日  
第3号 文責：井川 敬

## 検定勉強のもたらす意味

6月末で春の検定シーズンが終わりました。全商ビジネス計算実務検定から始まり、全商簿記実務検定、全商ビジネス文書実務検定と3週連続で行われましたが、受験された皆さんの手ごたえはいかがでしょう。商業科・事務情報科の皆さんにとっては切っても切れない関係にある「検定」についてふれたいと思います。

大義名分としては、商業で学んだことの成果をはかるものですが、そんな簡単なものではありません。まず受験者が全国にいるということです。つまり商業を学んだ高校生と自分のレベルを比較することができます。当然、3級よりもより上位級を取得しているに越したことはありません。商業棟の廊下に1級3種目以上取得した先輩方の名前が掲示されています。1級3種目は商業を学ぶ生徒の大きな目標の一つです。ちなみに、スピードスケートで金メダルを取った高木美帆選手は、帯広南商業高校在学中に1級3種目を取得しています。ぜひ、3年間で1級3種目にこだわり挑戦しましょう。

もう一つは、検定勉強を通して勉強の仕方を学ぶという側面があります。商業科・事務情報科に入学してくる生徒は大半の生徒は勉強が苦手であり、勉強の方法もよくわからないことが多いです。授業の一環で受ける検定は、そこに向けての演習も当然授業の中で行われますが、上位級になるとそれだけでは足りません。1級になると、さまざまな要素で凡ミスをするなどして合格を逃すこともあります。そういった経験を繰り返すことによって、試験に対する慣れができ、実社会で資格取得をしなければいけない状況に陥っても、対応できるようになるのです。3Eの中でも上位級に合格している人は、朝登校したら過去問などで演習していることも一人や二人の話ではありません。習慣になると自分から勉強するようになり、それは成績にもあらわれています。まず、目の前のことに全力を。

とある企業の総務部長の方からこのようなことを言われたことがあります。それは「検定については、その職種でいきるかどうかは別として、学業をしっかりと頑張ってきた証しになる」ということでした。つまり、履歴書に資格取得の欄がたくさん検定で埋まっていることは、学校生活をまじめに取り組んできた客観的な証拠になるのです。それが皆さんの進路活動の武器になっていくわけです。

合格した成功体験をいかして、高校生活で大きく成長した生徒は一人や二人ではありません。商業科・事務情報科から大学に進学したり、一流企業に就職することも決して不可能ではありません。実際に自分で可能性を広げて、進路実現を決めた生徒をたくさん見てきました。こういった生徒は共通点があります。一つ目は、目の前のことに全力を注ぐ。時間を惜しまず努力することができます。当然、講習などにも自主的に参加します。二つ目は、一度失敗したとしても、それを糧に何度もチャレンジしてみることです。学校はある意味、失敗が許される環境です。その失敗から何を学ぶか。これが人を成長させます。三つ目は、努力する人は周囲が応援してくれます。先生方も当然協力を惜しみません。そのような人は運も味方にします。ぜひ、自分で幸運を呼び込んでほしいものです。

ちなみに、自分は教員になる前に仕事上検定は30回以上受験しました。社会人の頃の方が間違いなく勉強していました。高校の勉強なんて社会人になってからに比べたら全然甘いです。



先日、3年次商業科・事務情報科の課題研究地域貢献グループの活動にて、校舎前の花壇の整備を行いました。今後は土を耕し、きれいな花を育てていきます。「根室高校周辺がきれいな花で囲まれるように。」と願いを込めて、一生懸命草むしりを行いました。



本日、3年次商業科（課題研究地域貢献グループ4名）は、根室市地域おこし協力隊の笠原優子さんの指導の下、根室市水産加工振興センターにて、笠原さんが現在商品開発をしている「カニバーガー」の試作体験をさせていただきました。蟹の身をふんだんに入れた、バーガーのパティ作りは創意工夫されていました。この後、生徒の感想を笠原さんにお伝えして、少しでも参考にしていただけたらと思います。試作体験、ありがとうございました。



先日、3年次商業科・事務情報科の課題研究地域貢献グループの活動にて、根室市図書館で古本の仕分け作業をお手伝いさせていただきました。



先日の野球部の有志応援、商業科の生徒の姿がちらほらありました。仲間を応援する気持ち・・素敵です。野球部にも商業科の生徒が数名いて活躍していました。有志応援に参加した生徒・野球部のみなさん、お疲れ様でした。